

IIABJ 第11回年次大会開く

注目されるデジタル革命と保険

IIABA(アメリカ独立エージェント&ブローカー協会)の日本協会であるIIABJ(東京都中央区)は11月18日、東京都千代田区の手町サンスカイルームで第11回IIABJ年次大会を開催した。昨年に引き続き「ベストプラクティス・エージェンシーを目指して」をメインテーマに、近年注目されているデジタル革命のこれまでの流れと現状について専門家が解説した。また、「当社の経営現状報告」として、保険総合研究所の清岡義教氏が自社の取り組みを紹介。この他、IIABJの米国研修に参加したバリュー・エージェンツの千秋康氏やChubb損害保険の高木玲雄取締役が登壇した。

はじめに、武田一男会長(甲南保険センター社長)が挨拶し、「今、システムが膨らむ時代。システムにかかるコストを抑える意味でも、今よりいいシステムではなく、3年後、5年後を見越した」

武田会長は、システムを構築する必要があり、最新テクノロジーに対する理解の重要性を訴えた。基調講演では、富士通総研金融・地域事業部のシニアコンサルタント小川泰幹氏が「保険業界におけるデジタル革命」と題して、これまでのデジタル

技術と現在注目されている技術の違いや、保険業界での活用事例について解説した。

デジタル革命の潮流について同氏は、これまでのITが効率化やコスト削減を目的としていたのに対して、現在のデジタル技術は製品やサービス、ビジネスの現場のプロセスに組み込まれ、企業の売上や利益、顧客満足度の向上に直結するも

文学的な向上と、ネットワークの高速化・大容量化があると強調した。

また、保険とテクノロジーの関連について、商品・プロセス・チャネルのそれぞれの観点から考察し、テレマティクスや自動運転技術、ウェアラブル端末の活用事例を紹介。デジタル革命によって保険業界にも新たなブレイヤーが進出してきて可能性を示唆した上で「代理店は、何を価値として顧客に提供していくのかを考える時期に来ている」と締めくくった。

続いて、清岡氏が、保険とリスクマネジメントサービスなどを組み合わせた同社の戦略について

シオン型提案を提唱し、顧客の業務を深く理解した上でリスクを洗い出し、保険だけでなく、あらゆる角度から情報支援を行っている。こうした取り組みにより、保険料勝負になりにくい、多様な提案に展開しやすい、付保漏れが起きにくいといった効果があると強調した。

千秋氏は、9月6日から9月13日にかけて行われた米国研修について報告した。本年度の研修には会員各社から10人が参加。米国のシステム会社やエージェンツ・ブロー

カー、保険会社、インシユアランスジャーナル社、IIABサンディエ

ゴ協会などを訪問した。研修の感想を語った千秋氏は、見学した代理店の共通点として、インフラへの多額の投資や専門家の育成と役割分担の徹底を挙げるとともに、リスクマネジメントの重要性に言及。併せて、IIABJとしての組織強化を訴えた。

最後にChubb損害保険取締役兼経営企画本部長の高木氏が登壇し、「Chubb損害保険会社の経営方針及び商品」と題して講演した。同社の業績やマーケットについて解説した同氏は、同社の理念である「クラブトマン(職人)シップ」についても触れ、「当社では、保険は単なる引受業務ではなく、クラブトである」と考えている」と述べ、専門性に対するこだわりを強調した。

紹介した。同社は奈良県に本社を置く創業44年の代理店。リスクソリューション

新たなプレーヤーの登場を示唆

のとなつていと説明。その変革の背景には、コンピュータパワーの天

紹介した。同社は奈良県に本社を置く創業44年の代理店。リスクソリューション

カー、保険会社、インシユアランスジャーナル社、IIABサンディエ

紹介した。同社は奈良県に本社を置く創業44年の代理店。リスクソリューション



清岡氏



小川氏



武田会長



高木氏



千秋氏